

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

平成30年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 小田 敏三	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	http://aizuvaichi.or.jp/
市所管課	文化政策課	電子メール	aizu-81@athena.ocn.ne.jp
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年 5月 8日 (平成22年12月22日公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,800 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名 ①			事業概要				
會津八一記念館管理運営事業			會津八一の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に資することを目的に、會津八一の作品、遺品等を収集し、保管し、及び展示(業務仕様書より)する。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
公益事業	受託事業	支出額	千円	49,948	45,870	45,192	43,646
活動指標・成果目標			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
年間入館者数	計画	人		10,000	10,000	8,000	
	実績			8,332	7,010	5,684	
	達成・未達成の理由等						
年間入館料	計画	千円		3,000	3,000	3,000	
	実績			3,141	2,598	1,920	
	達成・未達成の理由等						

事業名 ②			事業概要				
特別展と企画展			設けたテーマのもと、特別展は他館の収蔵品を借りたり他館との交換展といった形をとったりして、展示品を充実させた展示。29年度は、姉妹館関係にある早稲田大学の會津八一記念博物館の「富岡コレクション」から禅書画を中心に作品を借りた。テーマ「禅」に合わせ、良寛の作品「法華讃」を借りて展示した。全国良寛会からはチラシ配布の協力があり、良寛を敬慕するファンも多いことから期待を抱いたが、目標とする入館数の三分の二にとどまった。「禅書画」というと、難解なのか、それとも楽しいものなのか。会期中の講演会で禅書画の味わい方を解説してもらったが、展示に興味を持ってもらうためには、事前にその種の講演・講座が必要であることを痛感した。ただ、現状では、展示の企画とそれに関連して期間中に何をやるかを考えるのに手いっぱい。企画展は自館の収蔵品中心の展示。29年度は寄贈作品のお披露目展を2つ開いた。地味なテーマだった。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	1,930	4,677	3,650	3,650
活動指標・成果目標			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
入館者数	計画	人		3,000	3,000	3,000	3,000
	実績			2,296	3,031	1,911	
	達成・未達成の理由等						

事業名 ③			事業概要				
文芸講演会事業			特別展、企画展に合わせ、それぞれの展示テーマに連動した内容で専門の研究者らから語ってもらう講演会。また、神林館長が内外でする講演も含む。29年度は、特別展「禅」に関連しては「禅書画について」と「良寛の法華讃について」。企画展に関連したものは、ずばり「會津八一の書」についてと、八一が地元の文学仲間と目指した文学の方向や、八一の作品の底に流れる「写生」といったことをテーマに作家や評論家から話を聞いた。				
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	400	750	1,029	
活動指標・成果目標			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
開催数	計画	契約		10	6	8	
	実績			8	8	6	
	達成・未達成の理由等						
聴講者数	計画	契約		1,500	1,500	1,200	
	実績			1,099	909	755	
	達成・未達成の理由等						

事業名 ④			事業概要					
販売事業			會津八一の「学規」(額装)割引セールは毎年度実施。29年度は八一の俳句をデザインした扇子を開発。順調な売れ行きを見せた。また、在庫になっているいくつかの製品の割引販売、図録の割引販売を実施し、継続している。					
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)	
収益事業	自主事業	支出額	千円	4,054	1,873	2,211	3,000	
活動指標・成果目標			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)	
年間販売額			計画	千円	3,000	3,000	2,390	2,300
			実績		2,196	1,728	2,006	
			達成・未達成の理由等					

事業名 ⑤			事業概要					
普及活動事業①写真コンテスト②講演・出前講座			①写真コンテスト=会津八一の詠んだ歌をモチーフにした写真作品の全国公募コンテスト。審査委員長は写真家の浅井慎平氏。入賞入選作品はまず記念館に展示し(12月～3月)、その後巡回展を東京(中村屋サロン美術館)、京都(三千院)、奈良県内(県立図書情報館、いかるがぼーる)、高松(ppp)で開き、中条會津八一会の協力で胎内市で開いている。 ②出前講座=市が窓口となっている市政トーク便や中学・高校の修学旅行の事前学習での普及活動。館長や学芸員には県内外からの講師依頼もある。					
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)	
公益事業	自主事業	支出額	千円	2,578	2,483	2,432	2,500	
活動指標・成果目標			単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)	
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数			計画	点	110	120	180	160
			実績		145	187	151	
			達成・未達成の理由等					
館長・学芸員の出前講演会、講座回数			計画	回	10	13	13	
			実績		13	13	11	
			達成・未達成の理由等					

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

(単位：人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
役員数	11	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	11	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	8	8	8	8
その他				
職員数	5	5	5	5
常勤	3	3	2	2
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	3	3	2	2
他団体からの派遣				
非常勤	2	2	3	3
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	2	2	3	3
見直し等の取組み				

(2) 職員の状況（市派遣職員を除く。）

(単位：人)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
職員の状況	管理職	2	2	2	2
	一般職	3	3	3	3
	合計	5	5	5	5
年齢構成	20代以下				
	30代	2	1	1	1
	40代		1	1	1
	50代	1			
	60代以上	2	3	3	3
	合計	5	5	5	5

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度(予算)
報酬・給与等	20,947	20,962	19,837	21,164
内 市職員分	0	0	0	0
役員	0	0	0	0
常勤				
内 市職員分				
非常勤				
内 市職員分				
職員	20,947	20,962	19,837	21,164
常勤	13,575	13,694	9,950	11,222
内 市職員分				
非常勤	7,372	7,268	9,887	9,942
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	4,525	4,565	4,975	5,611
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系		有 予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔 〕		その他〔 〕

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
一般正味財産増減の部	経常収益	56,978	52,243	51,384
	基本財産運用益	3,185	3,186	3,210
	特定資産運用益	3	4	1
	受取会費			
	事業収益	50,865	46,248	45,400
	自主事業収益	4,617	3,775	3,556
	受託事業収益	46,248	42,473	41,844
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,925	2,805	2,773
	経常費用	53,431	52,238	50,983
	事業費	51,323	50,564	49,733
	公益目的事業費	42,762	42,066	41,506
	収益目的事業費	3,115	2,987	3,083
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	5,446	5,511	5,144
	管理費	2,108	1,674	1,250
	評価損益等調整前当期経常増減額	3,547	5	401
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
	特定資産評価損益等			
	投資有価証券評価損益等			
	当期経常増減額	3,547	5	401
経常外収益	0	0		
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	3,477	▲ 65	331	
一般正味財産期首残高	36,735	40,212	40,147	
一般正味財産期末残高	40,147	40,147	40,478	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金	0	0	
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額	0		
	指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
	基金期末残高	0	0	0
正味財産期末残高		241,871	241,871	242,202

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	20,947	20,962	19,837
役員分			
職員分	20,947	20,962	19,837

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
資産の部	資産の部合計	256,772	255,572	254,452
	流動資産	22,514	20,527	19,738
	現金預金	11,502	8,855	7,395
	未収金		4	
	有価証券			
	その他流動資産	11,012	11,668	12,343
	固定資産	234,258	235,045	234,714
	基本財産	201,284	201,137	200,990
	特定資産	28,418	28,358	27,161
	その他固定資産	4,556	5,550	6,563
	有形固定資産	4,526	5,325	6,143
	無形固定資産	30	225	420
	その他投資等			
	負債の部	負債の部合計	14,836	13,700
流動負債		7,836	5,963	4,811
短期借入金				
その他流動負債		7,836	5,963	4,811
固定負債		7,000	7,737	7,439
長期借入金				
その他固定負債	7,000	7,737	7,439	
正味財産の部	正味財産の部合計	241,936	241,872	242,202
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	40,212	40,148	40,478
	代替基金			
その他一般正味財産	40,212	40,148	40,478	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		256,772	255,572	254,452

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市財政支出等の合計	50,028	45,950	45,272
補助金	0	0	0
事業費補助金			
運営費補助金			
設備投資に係る補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	49,948	45,870	45,192
内 随意契約額※	49,948	45,870	45,192
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免, 建物の無償貸与等)			

※ 随意契約額とは、市との一者随意契約による委託料及び非公募による指定管理者料をいう。

(市財政支出等がある場合) 目的, 内容, 必要性, 増減理由等

--

(4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
純資産	241,936	241,872	242,202
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
抛出者の意思に従って, 使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	241,936	241,872	242,202

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常損益		3,547 千円	5 千円	401 千円
自己資本比率	純資産	94.2 %	94.6 %	95.2 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	287.3 %	344.2 %	410.3 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	94.1 %	94.2 %	94.0 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産 －資本金（基本金）	43,536 千円	43,472 千円	43,802 千円
公益目的事業比率	公益目的事業費	89.1 %	90.0 %	90.5 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.18	0.17	0.17
	遊休財産額			
資金運用 （基本財産としての 有価証券の保有）	● 有	→	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。	○
	○ 無			② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。
			③ 資金運用に関する情報収集に努めている。	○
			④ 元本割れのリスクはない。	○

（2）団体の自立性

指標		平成27年度	平成28年度	平成29年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	87.8 %	88.0 %	88.1 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

（3）経営の効率性

指標		平成27年度	平成28年度	平成29年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	10,173 千円	9,250 千円	9,080 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	709 千円	1 千円	80 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	3.9 %	3.2 %	2.5 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	422 千円	335 千円	250 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	36.8 %	40.1 %	38.6 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
●	有 計画名称〔 會津八一記念館中期運営計画・原案策定中 〕 計画5年 平成 28～33
<p>概要・数値目標</p> <p>策定に至らず。それに代えて、過去2回提出した文書に、入館者増に向けた今後の取り組み(事業内容)やその方針を最近の活動実績をもとに綴った文書を作成した。目安とするのは2021年、會津八一生誕140年だ。もはや歴史上の人物となった八一の業績を伝え、知ってもらうにはどうすべきか。入館者を増やす方策は何か。一昨年、姉妹協定による協力関係にある早稲田大学會津八一記念博物館から、八一の名を冠した学術論文募集の構想が持ち上がり、協力の要請が来た。140年の節目にふさわしい事業と期待するが、今のところ具体化していない。入館者は29年度5468人。、28年度の7010人から大きく減少した。昨年も、入館者は企画内容次第と書いたが、29年は知名度の乏しい人物がテーマだったり、「禅」という名称が難しく感じられたりしたためだと思われる。展示は、八一の「歌」と「書」と「人」に立ち返った純粹「書作品展」を方向として挙げる。また「見るだけ」から、引き続き参加型体験型企画を付随させて来館者増に結びつけた。一昨年の7,000人台への回復を目指す。次に若い世代への浸透だ。そのためにはとりわけ新潟市内中学校生徒には「巡検」という見学活動の場所に記念館を選んでもらうよう、また修学旅行先に八一の原点ともいえる「奈良・京都」を選んでもらえるよう働きかける。ただ、ただ「巡検」に来るかどうかは生徒の興味関心次第(それは学校でどのように郷土の先人教育＝文化の継承＝がなされるかにもよるだろう)だし、修学旅行も学校の方針が先にあるから、当館の思いだけではどうにもならない部分があるし、働きかけですぐに実現に結びつくとは思えない。県外への普及では、28年度の三重・石水博物館に続き、30年度は中村屋サロン美術館との交換展が実現した。相手あってのことで機会あれば受け入れ実現させる。写真コンテストの入賞作品の巡回展示も普及活動の一環だ。県外では東京・奈良以外に京都三千院、四国高松市の施設で実現した。京都初の歌碑が東寺に建立された。京都との関係を深化のためにも2基目を目指す。生誕140年がめどだろう。奈良・京都との交流を定期化も必要だろう。講演会は講師の選定作業があり、開催回数を増やすのは難しいかもしれない。参加人数も29年度は755人。800人以上動員したいものだ。</p>	
	<p>未策定理由</p> <p>〔 奈良に続き京都に歌碑を建立し(29年度)、「東アジア文化交流都市」関連のシンポ(27年度)、會津八一没後60年関連企画(28年度)、奈良京都との交流会(28、29年度)や交換展(28年、30年度)などといった事業が続き、4人の職場ではじっくりたたき台を議論する余裕がないというのが実情。 〕</p>

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
●	有 就任時期 年度～ 依頼先職種〔 〕	●	有 依頼時期 平成18 年度～ 依頼先職種〔 税理事務所 〕
●	無		無

③ 事務処理改善の取組み	
●	有 取組内容 平成29 年度～
	〔 窓口で駐車券の要望が多いことから、メディアシップ駐車場(1時間440円)の1時間無料券を、2000円以上の記念館商品を買った入館者に渡している。取り扱い商品を紹介するチラシを作製し、見やすいように受付に掲示。 〕
	無

④ 人材育成の取組み	
●	有 取組内容 平成17 年度～
	〔 市や民間の生涯学習事業(市政トーク便りなど)の講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげている。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけでなく、関連人物や周辺事項についても幅広い知識を習得してきている。それらが、會津八一の業績普及につながっている。上部団体の研修会にできる限り参加したり、県外博物館の見学や交換展で「見せ方」「企画の仕方」を学び、学術誌や他館からの依頼にこたえ原稿を寄せている。また新聞への寄稿は、簡潔に展示内容を紹介する文章作りの機会ととらえ、展示ごとに原稿を出稿している。 〕
	無

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況							
●	有	策定時期	平成12 年度～	団体ホームページ掲載	●	定款等	21 年度～
		規定名称	公益財団法人會津八一記念館情報公開規定		●	事業内容	21 年度～
無	未整備理由	役員は無報酬			●	役員名簿	21 年度～
			●		役員報酬	年度～	
●	事業報告	21 年度～					
●	正味財産増減計算書	21 年度～					
●	貸借対照表	21 年度～					
●	事業計画書	21 年度～					
●	予算概要	21 年度～					

改善対応区分
A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
B: 改善の取組の効果が始まっている
C: 改善の取組に着手
D: 改善の取組に向けて検討中
E: 今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		後継者の育成・増員を検討しなければならない。					
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
当該区分の理由		育成はともかく、増員は人件費等財源の裏付けが必要となる。その点での検討が必要だ。					
今後の具体的な取組み・対応方針等 (Aの場合は以下記入不要)		所管課とどのようなことができるか、問題点や可能性を話し合う					
今後の改善・対応	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	増員の検討			増員の可能性を検討。可能なら人材を探す	人材確保を目指す		
成果指標	活動指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	増員の検討	計画		増員の可否判断と人材発掘	人材確保		
		実績					
		計画					
		実績					
	進捗コメント						

改善指示事項		引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
当該区分の理由		顕彰の柱「展示」、その他事業については内容の検証や課題の洗い出し、検討は日ごろの業務の一環として行っている					
今後の具体的な取組み・対応方針等 (Aの場合は以下記入不要)		写真コンテストは応募者を増やす方策として、30年度は対象とする短歌の範囲を広げた。これまでは解説本一冊を参考図書として挙げていたが、もう一冊加えた。さらに共催団体をつつ増やし「賞」を増設した。次回以降は応募者を年齢別で分けるとか、対象短歌を限定するとかの案を含め、審査委員長の浅井慎平先生と協議する。					
今後の改善・対応	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	写真コンテスト		第11回コンテスト実施。巡回展会場の開拓	第12回コンテスト実施。対象短歌の範囲を増やす	第13回コンテスト実施。募集内容（要項）の見直し		
成果指標	写真コンテスト	計画	優秀作品巡回展会場に高松市と京都を追加	巡回展会場以上に上越市を追加。また、協賛企業の発掘			
		実績	高松と京都で実施				
	進捗コメント	県内外での巡回展は4月～11月に7会場。11月以降は作品募集と審査、表彰式と続き、年度末に向かうため、開催箇所数は7が限度か。協賛団体を増やすことで応募増加につなげたい。					
	その他	計画	早大會津八一記念博物館との協力（論文賞創設）	体験講座を2回実施（5月と8月）	体験講座の恒常化		
		実績	具体化の前段階				
	進捗コメント	早大からの話は中断している。体験講座は関心は高い。館に導く手段として有用					

改善指示事項		中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。					
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
当該区分の理由		（「取り組みについて検討中」の理由）現状分析・検証、そこからの課題について意思統一					
今後の改善・対応	今後の具体的な取り組み・対応方針等 (Aの場合は以下記入不要)	事業の柱、「展示」について。いろいろなテーマで今日まで企画し実施してきたが、「八一の書」そのものあるいは「歌」それ自体を中心に、八一自体を知ってもらうことに重点をおいた展示を考えようとの認識が部内で強く始めている。30年度以降のテーマの一つにする方向性が見えてきた。先人の残した「書」「歌」という芸術文化を見つめなおし（過去を学び）その伝承こそ新たな（未来へに向けた）文化創造の源だと考える。					
	実施事項	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
	①長期計画作成の意義	生誕140年を意識してこれからの展示・事業計画を考える	生誕140年を意識すると同時に、文化芸術としての八一の「書」「歌」に視点を置いた展示・事業内容を考える				
	活動指標・成果目標	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
	成果指標	計画	生誕140年事業の構想立案	生誕140年事業の構想			
			実績	未着手			
進捗コメント							
		実績					
進捗コメント							

改善指示事項		各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
当該区分の理由		主な収益事業は作品鑑定（鑑定料収入）と物品販売。鑑定は古美術商と個人の作品持ち込みによって成り立つ。作品は年によってその数に差があるので収入も上下する。物品販売は新商品を開発し、また新たな開発に取り組んでいる。図録や書簡集は大量には売れないものだというのが実感だ。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取り組み・対応方針等 (Aの場合は以下記入不要)	収益事業で文字通り収益を上げ（黒字）、公益事業はまさに「公益」目的だから黒字は好ましくないとの指導を税理士事務所から受けている。（収益でのプラスを公益に回す）。講演会は参加者の入館に結びつくので、新聞朝夕刊で参加を募る記事を載せてもらっているが（無料）、今後は新聞広告（有料）も視野に入れなければと考える。鑑定も広告で呼びかけたい。					
	実施事項	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
	普及活動	小学生までの年齢を対象に八一の生涯を描いた絵本を出版する（28年度に着手）	簡易版の歌碑一覧の作成				
	発信活動		鑑定事業実施を新聞広告に出す				
	活動指標・成果目標	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
	成果指標	出版	伝記本	簡易版歌碑一覧			
実績			中断中				
進捗コメント		伝記本は著者に予定していた作家と、意図する内容の齟齬があり、その調整を中断している。京都に歌碑が建ったので簡易版の歌碑一覧の制作にめどをつけたい。					
		計画		テレビCM作成			
発信活動	実績						
	進捗コメント	新聞記事・広告、テレビCMを活用し、より多くの県民市民に展示や講演会を知ってもらう					

改善指示事項		今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
当該区分の理由		要望する展示内容を答える項目があり、回収率アップを狙いプレゼント希望の申し込み欄も設けている。感想は「よい」と「とてもよい」合わせて92%（28年度94%）。分量について適当だとするのが80%（28年度83%）とほぼ同水準で推移。ただし「とてもよい」が65%から59%に下がっているのが気になり。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等 (Aの場合は以下記入不要)		来館者調査とその結果の還元を目指した簡易PCシステム導入の提案を、北海道大大学院生から受けた。こういった利点があるか検討する。				
	実施事項		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	アンケート項目の手直しによる具体的要望を引き出す		設問項目の精査・検討	新しいアンケート用紙により、意見要望をつかむ。開催認知の手段・方法を分析し広報・告知の	要望意見の展示への反映を目指す	要望意見の展示への反映を目指す	
	回収率アップを図る		アップのための方策を検討・決定する	記念の品を渡して回答状況の改善を図る	要望への回答を館内掲示できるようにし、観覧者に「参加意識」を持って		
	活動指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	成果指標	アンケートの回収率向上	計画	回収率7%	回収率8%	回収率9%	
実績			6・4%				
		進捗コメント					
		計画					
	実績						
	進捗コメント						

改善指示事項		在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
当該区分の理由		会計処理を委託している税理士事務所の指導を受けている。刊行物（図録・書簡集）は制作費と販売価格の兼ね合いで、極端に部数を減らせないが、30年度は紙質を下げ（書簡集）、部数を減らしながらも単価の上昇を抑えた。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等 (Aの場合は以下記入不要)		まずは、割引価格で在庫品の販売促進をする。次に、新規制作に当たっては在庫を増やさないようにする。それには部数を減らすことだが、逆に単価の上昇になる。単価アップにならによる、今の体裁でいいのか、内容も含めて検討課題としたい。				
	実施事項		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	制作部数をみなおす			特別展図録、雁魚來往の制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の制作部数見直し	
	在庫の有効利用		在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	割引販売をしながら、在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	
	活動指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
	成果指標	販売促進	計画	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	
実績							
		進捗コメント					
		計画		毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	
	実績						
	進捗コメント						

改善対応区分 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む) B:改善の取組の効果が始まっている C:改善の取組に着手 D:改善の取組に向けて検討中 E:今は実施せず今後の課題とする

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

① 今後の改善・対応	今後改善を要する事項		展示室が1室である。(廊下にも展示できるが) 1室というのは内容は別として「ここだけ？」の感を抱かれる。なんとかボリュームを出したい						
	改善・対応区分		A	B	●	C	D	E	
	当該区分の理由								
	今後の具体的な取組み・対応方針等 (Aの場合は以下記入不要)		(上記「当該区分の理由」欄に文字入力できず=ソフトの不具合か)。30年度特別展は、会議室とビデオルームにも作品や所蔵品を置いて展示スペースとした。増設は無理だから「常設」的スペースの工夫をしなければと考える。また、それとは別に見せ方として「常設的」展示の内容を検討する。						
	工程	実施事項		平成30年度	平成31年度	平成32年度			
		展示のボリュームアップ		特別展で会議室、ビデオルームに作品・所蔵品を展示	常設的スペースの設置または、常設的内容の展示の工夫				
	成果指標	活動指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
			計画		会議室、ビデオルームの、展示スペースへの転用	常設的展示の実施			
			実績						
			進捗コメント						
		計画							
		実績							
	進捗コメント								

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	当然のことながら受託事業費（指定管理料）については、その額以内で支出は抑えている。収益事業の柱の一つ鑑定事業収益は、その年によって鑑定依頼数の多い少ないがあって収益は安定しない。指摘されている大量の商品在庫について。今年は書簡集、特別展図録とも製作部数を減らした。ただし、製作単価が、一応設定している販売価格を上回るわけにはいかないので、ぎりぎりの線で発注した。利益はごくわずかだ。収益に寄与するヒット商品が生まれればよいが、一朝一夕にはいかない。開発基本財産200,000,000円、特定資産としてイベント事業運営基金約5,000,000円、収蔵取得基金約14,000,000円。
団体の自立性	新潟市からの受託事業費が活動の上での大きな割合を占める。展示ほか事業のほとんどは、財団の独自企画で運営している。ただし所管課からの指導・アドバイスはその都度いただいている。
経営の効率性・適正性	いわゆる文学館ではない。「デパートやショッピングセンター」ではないから売り出す商品、いわゆる目玉商品は「會津八一」しかない。専門店であることは強みでもあるが、目新しさでは引き付ける要素に乏しいといえる。手持ちの収蔵品を中心としながらも、他館から借りて展示に変化を持たせている。学びの場、文化・芸術鑑賞の場を提供していると自負するが、かけた輸送費・人件費等に対する入館者（入館料）、つまり費用対効果の点では満足のいく数字では残せていないだろう。ただ、會津八一が「われわれの学ぶべき人物」として文化教育の場において位置付けられるなら、記念館が専門店として、専門知識による普及・顕彰事業を続けていくことに意味はあり、必要なことだと考える。
その他	
総括的な所見	
會津八一の短歌と書。あとは八一と文化人らとの間で交わされた手紙。主たる所蔵品はこれしかない。他館関係者から「展示のタネが尽きないものだ」と、冗談交じりに感心されるほどだが、テーマ設定で目新しさを出しているのは二人の学芸員の努力によるものだ。そのことが即、入館者増に結び付くかといえそうではない。また、500円という料分で「たっぷり見た」という印象をもってもらうには、見せ方にはまだまだ工夫の余地があるだろう。同傾向の所蔵品、限られた展示スペースではあるが、30年度特別展での試み（既存スペースを活用して展示スペースとした）を生かし、新たな発想で活路を見いすべきだ。新潟市が生んだ偉人、その道に秀でた人物は多くいる。歌人ばかり、書家ばかり。その中で歌を詠んだ書家であり、書にも独自の境地を開いた歌人、それが會津八一だ。教育者としての側面もある。多方面に業績を残したという点、まだまだ発信しきれていない。ほか、検討・再考の余地があるのは、出版物—図録、書簡集だ。その必要性はあるにしても作り方を考えなおすべき時期に来ているといえるのではないか。図録をつくらないという館もあるくらいだ。費用との兼ね合いを見ながら資料として残しつつ在庫として残さない。	

【所管課による評価】

現状に対する評価	主要事業の目標が全て下回っている。少人数での施設運営となるため難しい面もあるかもしれないが、計画的に目標達成に向けて努めてもらいたい。
課題及び改善すべき事柄	入館者数の減少が大きいので、魅力的な展覧会の企画、特に若い世代への積極的な広報等を進めていただきたい。
今後の指導方針	現在策定中の中長期計画を策定し、計画的な人材登用や入館者の増加に向けて注力していただきたい。

【総合評価】

<input type="checkbox"/> 概ね良好	<input type="checkbox"/> 改善の余地がある	<input type="checkbox"/> 改善が必要	<input type="checkbox"/> 抜本的な対応が必要
総括的な所見			
改善指示事項			

【総合評価を受けての団体としての決意】

--

【総合評価における改善指示事項への対応方針】

改善指示事項							
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み ・対応方針等						
	工程	実施事項・計画	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	
	成果指標	活動指標・成果目標		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度

改善指示事項							
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み ・対応方針						
	工程	実施事項・計画	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	
	成果指標	活動指標・成果目標		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度